



## 一の宮巡拝会・近畿ブロック第3回交流会報告

開催日 平成20年9月21日(日) (日帰りバス巡拝)  
 開催地 丹後国一の宮 元伊勢籠神社  
 行程 JR新大阪駅観光バスターミナル集合～天橋立(昼食)～籠神社(正式参拝)・宮司様講話拝聴～元伊勢内宮(正式参拝)～日室岳遙拝所～天の岩戸神社～高速道経由～JR新大阪駅解散

平成20年9月21日(日)午前9時、生憎の天候の中、31名の会員・会友が新大阪駅に集合し、一路「丹後国一の宮・籠神社」を目指してバスにて出発しました。バスの中での参加者の自己紹介並びに近況報告、顧問の生谷陽之助先生の「籠神社・元伊勢神社の講話」を頂きました。天橋立を望むレストランで昼食をとり、12時半過ぎに籠神社に到着しました。



写真上／天恵雨の天の真名井神社にて  
 写真下／御本殿御前で海部宮司様の講話を拝聴

籠神社では正式参拝の後、海部宮司様の講話、奥宮真名井神社参拝、真名井の霊水の試飲など盛り沢山で予定の時間を超過してしまいました。

午後2時に籠神社を出発、時間の関係で元伊勢外宮

豊受神社は省略し、元伊勢内宮皇大神社へ直行しました。元伊勢内宮では足下の悪い中、巡拝会会員の大林禰宜様により正式参拝を行い、日室岳遙拝所(一願さん)も案内していただきました。



幻想的な日室岳 龍雲が頂へと登る

次に急ぎ足で天の岩戸神社を廻りました。

最後は慌ただしくバスに乗り込み、午後7時前に新大阪駅に無事に到着しました。

今回は初めてバスでの日帰り開催となりました。今後も交流会の開催場所が遠方になることが考えられ、皆様のご協力により一応の道筋は付けられたと思います。一人での巡拝と異なり、交流会に参加することにより、情報交換や懇親も深められ、また宮司様等から日頃お伺いできないお話や入れない場所にも案内していただける機会があります。是非皆様にも向後の巡拝会の諸企画へのご参加をお勧め致します。

一の宮巡拝会近畿ブロック 高寺 壽

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

### 一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159

### 一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内  
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135



厳島神社・国宝の廻廊



安芸国一の宮・  
厳島神社海中の大鳥居



伊弉諾神宮 拝殿と扁額



伊弉諾神宮手水舎



淡路国一の宮・  
伊弉諾神宮二の鳥居



周防国一の宮・  
玉祖神社拝殿



御垣内に鎮む神石



阿波国一の宮・  
大麻比古神社拝殿



大麻比古神社祓川橋



田村神社境内  
全国一の宮鎮座地碑



長門国一の宮・  
住吉神社拝殿



国宝の五連造神殿



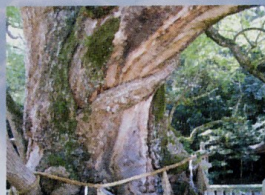
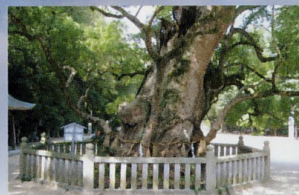
土佐神社本殿屋根頂



拝殿より本殿御扉と金幣



土佐国一の宮・土佐神社正面



伊予国一の宮大山祇神社 御神木五景

## 巡拝の声

### 雄山神社峰本社登拝記

今年4月に高野山で開催された全国交流会懇親会の席上で、雄山神社峰本社の登拝を呼び掛けたところ5名の同行者があり、8月1日の夕方、北は仙台、南は和歌山から6名のメンバーが富山地鉄岩嶺寺駅で合流した。77歳の嶋田さんをはじめ、小山さん、北村さん、井上さん夫妻と私の6名です。2日は早朝より雄山神社前立社壇、中宮祈願殿に参拝し、昼には標高2450mの室堂に入り、みくりが池周辺を軽いトレッキングで体を慣らし明日に備えた。

翌3日は雲ひとつない快晴、前方には目指す立山が壁のように立っている。山頂に峰本社が小さな突起状に確認できる。尾根にはもう多くの人が登り始めているようである。小さな米粒状の人影が徐々に山頂を目指して移動しているの見える。朝7時に室堂を出発。ここから標高差550mの

急坂が続く。所々、滑り易い雪渓を渡る。無理せず途中で何回も休憩をとりながら、中学生の団体や元気な人には道を譲り、ゆっくりと登り続けた。9時にやっと一ノ越に到着、大

休止をとる。南に薬師岳、槍ヶ岳・穂高さらに富士山と大パノラマに疲れを忘れる。ここから正念場の尾根道です。ここでも、マイペースで人に道を譲り、また時には手を差し伸べていただき、神様の後押しを感じつつ、徐々に這い上って行くという感じです。あと50mで頂上という時、救助ヘリコプターが飛来し、高山病で倒れた人を救助していた。ヘリコプターが飛び去ったのち、普通なら2時間で登るところを倍の4時間かけて、午前11時全員無事に標高3003mの頂上に辿り着いた。一人の脱落者もなく無事に全員が頂上に着き、抱き合って喜んでいる姿を見るにつけ、感激と感動の登拝でした。 高寺 壽



雄山神社峰本社

小説「全国一の宮」調元祖

# 橘 三喜 (第三十五回)

郡 順史・作 梶 鮎太・画

三喜は、参道を出て街路に出ると、かたわらの樹影に島上平之進をいざない、

「どうかな？」

と尋ねた。

もとより平之進が堤宮司のことを気に入ったとはその様子で察してはいたが、本人の口からその旨を直接耳にした上で、自分と宮司との間柄、そして宮司の人となりを簡単に話しておこう、と思ったのである。

平之進は直立の姿勢で、  
「生涯の師と仰ぎます」

と答えながら、膝に両掌を置いて頭を下げた。

「そう言ってくれるとわしも嬉しい。しからばあとはおぬしの精進次第として、あの方の事を簡単に話しておこう」

と頷きながら語った。

「堤宮司の父上は堤新兵衛信貞様と仰せられ、私の父の師の方であった」

と。そしてその父の師に自分も十六歳より師と仰いで壱岐神楽、国学、その他の学問を教わった。師には男子と女子の児がおいでになって、男子は私より五歳年少であったが師の父の心遣いで学友として机を並べて勉学するようになった。それがいまの宮司信幸様である。

彼の人は年齢は下であったが記憶力にすぐれ、私より学問の進歩が速かった。が、お人柄がすぐれたえず私をかばうて下され、決してその事で私が落ち崩れないようにと気配りをして下された。おそらく今は和漢に限らぬ学問を身に備えておいでであろう。

その妹がわが妻良枝である。

黙って拝聴していた平之進は、三喜が語りおえると、もう一度丁寧な頭を下げたが、語は発しなかった。

「ではこれから國家老殿と、出来うるなら村松殿をお訪ね致そうか。それとも旅支度を脱いで、明日心あらためてお伺い申し上げようか」

三喜は平之進の意見を徴した。

本来ならば陽のあるうちに帰国したのであるから、役の上からも真先に訪ねて挨拶し、祭仕の事どもを相談し指示をあおぐのが順であるが、思わぬ事柄で時間をとってしまったので、三喜も左右の判断に少々迷ったのである。

「僭越でございますが、拙者は、直にお伺い申し上げたほうが宜しかろうと存じます」

平之進は恐縮しながらも自分の意見を吐いた。恐縮したのは、自分の為に時間を費したという思いからであろう。

三喜にとってこうした平之進の率直な心身の処し方が好ましいのである。

「では参ろう」

三喜一つ大きく頷くと歩をすすめた。

肥前平戸の松浦家の天守閣が見えてきた。六万一千石の城ゆえ閣も大きくもなければ縄張りも広くない。しかし二百年の歴史があるだけに、一種特有の風姿を備え堂々としている。

國家老滝川弥一右衛門の屋敷は城の大手門の手前にある。一方寺社奉行の村松伊織の屋敷は城の裏手。従って國家老を訪うてから村松家へ行くと、もしやすると夕刻になってしまうかもしれぬ。だがそれも止得ぬ、と三喜は覚悟をきめて足を早めた。

國家老屋敷の門前に至った。

三喜はふと足を停めて、門の左手へ視線を投げ、感懐をこめて眺めやった。

その視線の先に、塀を越えて、梅の木が覗いている。梅は薄紅の花を馥郁と咲きほこっている。

「ああ、今年も咲いている」

三喜は思わずか、声に出して呟いた。少年の頃、この前をしばしば通った事を思い出したのである。

(つづく)



## 平成二十年度「一の宮巡拝会」 関東ブロック交流会のお知らせ

左記の通り実施いたします、ご参加ください。

出雲国に天降つて大国主神に国譲りを承諾させた武神・武徳の神を祀る、関東屈指の古社である常陸国一の宮鹿島神宮と下総国一の宮香取神宮を正式参拝いたします。



鹿島神宮本殿



香取神宮拝殿

本年は干支の初めの歳、初心に還つた子の年でしたが二年間のご守護の御礼と来るべき新玉の年への国家安寧とご皇室の弥栄、並びに世界恒久平和を祈念致したいと存じます。一の宮ではありませんが東国三社と伝えられる息栖神社も併せて参拝いたします。

又鹿島神宮では鹿島則良宮司さまから『東国守護の武神 武甕槌大神と鹿島立ち』についての講演を拝聴させていただきます。年末の時節を迎えて多忙な時期かと存じますが是非ご参加下さいます様お知らせいたします。

**日 時** 平成二十年十月二十二日(土)日帰りバス巡拝  
**集 合 時** JR東京駅丸の内北口(目標・会旗を準備致します)  
午前八時五十分～午前九時出発 時間厳守  
**行 程** JR東京駅丸の内北口午後六時三十分頃  
**解 散 費** 一万二千元(玉串料、観光バス・飲み物・昼食代含む)  
東京駅駅→観光バス・東関道経由→香取神宮(正式参拝)→奥宮参拝→鹿島神宮近所で昼食  
↓鹿島神宮(正式参拝)→奥宮参拝→宮司さまの講演拝聴・交流会→息栖神社参拝→東関道経由  
↓東京駅

### 申し込み

参加希望者はファックス又はメールにて東京事務局へ十一月八日までにお申し込みください。電話でも可。

## AMDANAパール子ども病院 十周年記念式典参加ツアー

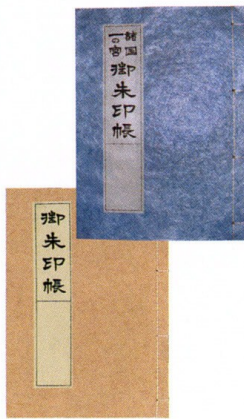
近畿ブロック会員の江口貴博医師はAMDANA(国際医療ボランティア団体)の兵庫支部長を務めている。一九九五年に起こった阪神淡路大震災の時にペールの若い医師らが震災のボランティア活動を行ったのがきっかけで、そのお礼をしようと被災地を中心に募金活動を行い、一九九八年AMDANAパール子ども病院が設立された。「パールは子ども死亡率が日本に比べて異常に高い。そんなペールの子どもたちを救いたい」と江口医師。この度十周年を記念して高野山蓮花院東山泰清住職も出席して親善を深めるといふ。カトマンズ到着後AMDANAの歓迎パーティやお釈迦様の生誕地であるルンビニそして有名なりゾート地ポカラを訪問するツアーを来年一月中旬に企画している。ツアー参加希望の方は、本事務局へお問い合わせください。なお、申し込み切は十月三十一日(金)です。

### 問い合わせ

兵庫県川西市大和東一三三十一  
一の宮巡拝会事務局 電話〇七二七九一五五八宛

## 新・御朱印帳完成

好評の出雲千年和紙(斐伊川和紙)二万五千円のご朱印帳につき、第三版として四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙を使用して新規に普及版を製作いたしました。出雲和紙同様、軽くて携帯に便利(二五〇g)、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。  
\*一の宮神社以外の御神印をいただくために、本文全て白紙版、和紙(B5判・軽量)の御朱印帳。ご購入希望者は東京事務局まで



上(青)／四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙の普及版 定価7,000円(送料別)  
下(白茶)／B5判和紙本文全て白紙版定価6,000円(送料別)

◎全国一の宮巡拝のすすめ・改訂版(三百円)  
◎全国一の宮参拝参考資料・初版(百五十円)  
ご購入希望者は東京事務局まで

好評頒布中

## 朝日旅行会 諸国一の宮めぐり 巡拝達成ご報告



平成十六年一月から始められた朝日旅行会主催、諸国の宮めぐりは回を重ね、九月十七・十八・十九日に最後の第二十九回ツアーを挙行。出羽大物忌神社(吹浦宮・蔵岡宮)・陸奥鹽竈神社・都々古別神社(馬場・近津社)・石都々古別神社を参拝。無事、四年にわたる全国一の宮巡拝を達成することが出来た。北は東北から南は九州、佐渡・隠岐・香取・対馬の離島を含め廻遊した。この間、一の宮の神々の御加護もあつてか、不思議にも好天候に恵まれたのも幸いであつた。一の宮巡拝ツアーとしては、はじめての快挙であると思う。日本人の心の古里めぐりの宮巡拝が、ますます盛んになることを心から祈りたい。

### 一の宮巡拝会顧問／生谷 陽之助

旅行企画・実施 株式会社朝日旅行  
〒五三〇〇〇〇四 〇六六三三四五一六三  
大阪府大阪市北区堂島浜二丁目十九古河大阪ビル本館5F

### 一の宮巡拝会本事務局 創房関宮有内

〒六六六〇二二 兵庫県川西市大和東二十三  
電話 〇七二七九一五五八  
FAX 〇七二七九一五五九  
E-mail: jumpai@sekinomiya.com

### 一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内

〒二一〇〇五五 東京都台東区三筋一十二  
電話 〇三三五八三三三九〇  
FAX 〇三三三八六五一三三五  
E-mail: sho0369@circus.ocn.ne.jp

### 入会金及び会費について

一般維持会員 年会費 三〇〇〇円  
賛助会員 一口三〇〇〇円(何口でも可)  
寄付金 お志し ※常時受け賜ります。薄謝謹呈

### 郵便振替(大阪)〇〇九九〇一五八二五

会費等お振込み先